

スマートフォンなどを活用した『モバイル型遠隔情報保障サービス』
「遠隔文字通訳」について、ご説明します。

特定非営利活動法人長野サマライズ・センター

1, 『モバイル型遠隔情報保障システム』は、万能ではありません。

<音声> 電話回線を使って音声を送っているので、非常に音質が悪くなります。
聞き取れない場面が、どうしても多くなります。

マイクに近づき、ゆっくり、はっきり、「言いかえる」など説明の方法を
変えてみる、などの対応をお願いします。

<遅延> 電話回線で音声が届き（1秒遅延）、それを機器ながら入力し（1秒遅延）
入力文字データが送信されて表示される（1秒遅延）、という遅れが発生
することを事前にご了解ください。

2, 「聴覚障害があっても、いつでもどこでも情報が得られる」ための、
1つの手段にすぎません。

3, つまり、利用者の皆さんが、時と場合に合わせて、支援サービスを
さまざまに選択していただけるようになることを目指して活動しています。

4, 使っていただけると良い点は、以下のような場合です。

・入力者が、その場に同席しなくても文字によるサービスが受けられます。

例：守秘義務が厳しい、企業内のミーティング

個人情報を含んだ内容の会議（議会、教育委員会）

思春期を迎えた聴覚障害の生徒さん向け など

地元の通訳者を手配できない場合。

地元の通訳者では、長時間になりすぎて、対応しきれない場合。

（遠隔を使うと、全国の入力者が交代で入力することもできます）

・入力者の同席する場所の確保が不要です。

例：狭い会場、机が入りにくい席（議場の傍聴席など）

・文字を表示させる機器を自由に選んでいただけます。

（スクリーン、ノートパソコンの画面、テレビ画面やカーナビ等のモニター機器
ゲーム機、スマートフォンなどの携帯端末）

インターネットに接続できるパソコンの準備があれば、スクリーンに投影しながら、
モバイル端末でも、同時に文字を見ていただけます。

その他、ご質問がありましたら、遠慮なく、お知らせください。

特定非営利活動法人長野サマライズ・センター 小笠原恵美子

メール sama4089@yahoo.co.jp、 FAX 0263-52-4148